

平成 22 年 6 月 7 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2009

課題番号：19530506

研究課題名（和文）里親の養育観にソーシャルサポートが及ぼす影響

研究課題名（英文）A study on the influence of social support in bringing-up children among foster parents.

研究代表者

鈴木 幸雄（SUZUKI YUKIO）

北海道医療大学・看護福祉学部・教授

研究者番号：20171267

研究成果の概要（和文）：本研究は里親支援の指針を得ることをねらいとして、里親の養育とソーシャルサポートが里親の情緒的疲弊の高低にどのような影響を与えているのかを検討した。調査対象は、北海道の都市部（札幌市）と郡部（札幌市を除く北海道内）の登録里親全数とし、郵送法の調査を実施した。統計解析の結果、里親の養育とソーシャルサポートは、ソーシャルサポートの高い群の里親は情緒的疲弊が低い傾向がみられた。また、郡部の里親の情緒的疲弊の高低に影響を与えた項目は、児童相談所の「気持ちの通じ合う人」であった。

研究成果の概要（英文）：This study examined how social support would influence on bringing-up children and emotional exhaustion of foster parent. The questionnaire was mailed to all the registered foster parent of the urban areas (Sapporo city) and the rural district (within Hokkaido except Sapporo city). As a result of statistics analysis, the group of foster parent that has high social support was found to have a tendency to low emotional exhaustion. Moreover, the factor that influences on emotional exhaustion among the foster parents in rural district was found 'to have a person whom one can share the feelings' at a consultation office for children.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	700,000	210,000	910,000
2008年度	300,000	90,000	390,000
2009年度	300,000	90,000	390,000
年度			
年度			
総計	1,300,000	390,000	1,690,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学

キーワード：里親、里親制度、ソーシャルサポート、情緒的疲弊、要保護児童、社会的養護、児童養護施設、児童相談所

1. 研究開始当初の背景

里親制度は家庭での生活を通して愛着形成を図ることのできる重要な制度である。社会的養護として里親制度の活用を優先することは諸外国の共通認識となっている。しかしながら、諸外国と比較して日本の里親制度は十分な発展を見せていない。

本研究では日本の里親制度の発展には里親支援の方策が必要であると考え、里親の養育とソーシャルサポートに着目した。その理由としては里親養育におけるソーシャルサポートは、対人関係の中で生じる情緒的疲弊（ストレス）を、自分に支持的な人間関係の中で軽減するという点において重要な意味をもつと考えたからである。

また、これまでの里親に関する調査研究は、いずれも里親の制度に対する意識や里子に対する意識全般に着目し調査したものであった。そのため、本研究のように里親の養育とソーシャルサポートに着目し、里親支援のあり方に焦点をあてた先行研究は見あたらなかった。

2. 研究の目的

本研究では、今後の里親支援の指針を得ることをねらいとして、北海道の里親の養育とソーシャルサポートの現状を明らかにし、その高低が里親自身の情緒的疲弊にどのように影響するのか、また、都市部と郡部の地域差について検討することを目的とした。

3. 研究の方法

本研究は、都市部（札幌市）の登録里親全数の109名と郡部（札幌市を除く北海道内）の登録里親全数の472名に対し、自記式質問紙を用いた郵送法の調査を実施した。回収は、都市部82名（75.2%）、郡部284名（60.2%）であった。

質問項目は、基本属性に関する項目、委託児童との生活に関する項目、情緒的支援ネットワーク認知尺度とした。

質的変数の解析については、単変量解析では χ^2 検定を実施し、多変量解析では目的変数を情緒的疲弊度の高低の2群、説明変数をソーシャルサポートの高低として独立性の高い項目を検出した。

4. 研究成果

単変量解析を実施した結果、郡部では、情緒的支援ネットワーク認知尺度で設定した家族カテゴリーでは、10項目中、「会うと心が落ち着き安心できる人」、「あなたを日頃評価し、認めてくれる人」、「あなたを信じて思

うようにさせてくれる人」、「あなたが成長し、成功することを喜んでくれる人」、「自分の気持ちや秘密を打ち明けられる人」、「お互いの考えや秘密を打ち明けられる人」、「甘えられる人」、「気持ちの通じ合う人」の計8項目で有意差（ $P < 0.05$ ）が認められた。この8項目で多変量解析を実施したところ、「会うと心が落ち着き安心できる人」、「甘えられる人」の2項目が独立性の高い変数として検出された。

里親仲間カテゴリーでは、10項目中、「常日頃あなたの気持ちを敏感に察してくれる人」、「あなたを日頃評価し、認めてくれる人」、「あなたを信じて思うようにさせてくれる人」、「自分の気持ちや秘密を打ち明けられる人」、「お互いの考えや秘密を打ち明けられる人」、「甘えられる人」の計6項目で有意差（ $P < 0.05$ ）が認められた。この6項目で多変量解析を実施したが、独立性の高い変数は検出されなかった。

児童相談所カテゴリーでは、10項目中、「会うと心が落ち着き安心できる人」、「常日頃あなたの気持ちを察してくれる人」、「あなたを日頃評価し、認めてくれる人」、「あなたを信じて思うようにさせてくれる人」、「あなたが成長し、成功することを喜んでくれる人」、「自分の気持ちや秘密を打ち明けられる人」、「お互いの考えや秘密を打ち明けられる人」、「甘えられる人」、「あなたの行動や考えに賛成し、支持してくれる人」、「気持ちの通じ合う人」の計10項目全てに有意差（ $P < 0.05$ ）が認められた。この10項目で多変量解析を実施したところ、「自分の気持ちや秘密を打ち明けられる人」、「気持ちの通じ合う人」の2項目が独立性の高い変数として検出された。

さらにこの4項目による多変量解析を実施し、オッズ比を算出したところ、児童相談所カテゴリーの「気持ちの通じ合う人」の1項目の独立性の高さが示唆された。

他方、都市部では全ての項目において有意差は認められなかった。都市部の里親の形態が短期里親に偏っていたためと推測される（都市部43.8%、郡部21.1%）。

以上の結果から全体を概観すると、里親の養育とソーシャルサポートは、ソーシャルサポートの高い群の里親は情緒的疲弊が低いという傾向がみられる。家族カテゴリーでは、家族内のサポートの有無が情緒的疲弊の高低に影響を与えたと考えられる。里親仲間カテゴリーでは、里親自身が他の里親から情緒的なサポートを受けるといった認識が少ないように考えられる。児童相談所カテゴリーで

は、公的機関である児童相談所に対して、里親は秘密を打ち明けることができ、気持ちの通じ合うという比較的インフォーマルなサポートがあることが、情緒的疲弊の高低に影響を与えるという知見を得ることができた。

また、郡部の里親の情緒的疲弊の高低に最も影響を与えた項目は、児童相談所の「気持ちの通じ合う人」であった。里親は夫婦で養育に関わる様々な問題と向き合い、夫婦でこの問題を解決していかなければならないが、それでもどうにもならない時には児童相談所の支援を求める傾向があることを示唆している。

本研究は里親支援の指針を得ることをねらいとして、里親の養育とソーシャルサポートが里親の情緒的疲弊の高低にどのような影響を与えているのかを検討した。この調査結果で得られた知見は、基礎的調査の域を出ていない。どのようなサポートが必要なのか、新しいネットワークやシステムはどのように構築すればよいのかなどという今後の里親支援の具体的な内容を検証することが課題として残されている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

奈良隆正、他、北海道の里親制度に関する里親の意識調査、北海道社会福祉研究第27号、北海道社会福祉学会発行、2007、pp. 65-75

〔学会発表〕(計1件)

鈴木幸雄、奈良隆正、里親のソーシャルサポートと情緒的疲弊の相互関連性、北海道社会福祉学会第45回大会、2008・2、北星学園大学

〔図書〕(計1件)

奈良隆正、成田哲也、阿部好恵、花澤佳代、佐藤秀紀、鈴木幸雄、北海道医療大学、北海道の里親制度に関する里親の意識調査報告書、2008、99

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鈴木 幸雄 (SUZUKI YUKIO)
北海道医療大学・看護福祉学部・教授
研究者番号：20171267

(3) 連携研究者

阿部 好恵 (ABE YOSIE)
帯広大谷短期大学・社会福祉学科
研究者番号：90406009
花澤, 佳代 (HANAZAWA KAYO)

北海道医療大学・看護福祉学部・准教授
研究者番号：40305941

大友芳恵 (OOTOMO YOSIE)
北海道医療大学・看護福祉学部・准教授
研究者番号：20347777

佐藤, 秀紀 (SATOU HIDEKI)
青森県立保健大学・健康科学部・教授
研究者番号：60265105